



素晴らしい仲間との時間 ～他者の喜びのために生きる～

笈川 光郎

Mitsuo Oikawa

日本 YMCA 同盟会長
東京 Y M C A 会員

▼キャンプとの出会い

私が初めてキャンプに参加したのは、中学 1 年の時に東京 Y M C A が毎年夏に野尻湖畔（長野県）で行っている男子だけの 2 週間のキャンプ「野尻学荘」でした。そこでの生活は、それまでの私が経験したことのないものでした。野尻湖をフィールドにした水上プログラムがたくさんあり、バタ足で 3m ぐらしか泳げなかった私は、まず水泳を習い、とても優しいリーダーに教えてもらい、翌年の夏には遠泳 3,500m を完泳することができるようになったのです。ボート、ヨット、カヌーなどにも乗ることができるようになりました。

高校の時には、妙高山にテントや重たい薪を背負って登り、飯ごう炊飯、湖畔一周などいろいろなプログラムがありました。朝は湖の水で洗面をし、元気のいい人はモーニング・ディップと言って湖で体を洗う人もいました。体操から始まり、グリーンチャペルでの礼拝、朝食、清掃、学習の時間、実習、昼食、静かな時間（午睡）、自由水泳、自由時間、夕食、夜のプログラム、ディボーション、就寝と言うのが一日のスタンダードプログラムでした。

2 週間という長期のキャンプでしたから、キャンプで何かをしたというよりも、楽しい仲間と生活を共にしたという感覚でした。この特別な経験が、その後の私の人生を大きく動かしていくことになるのです。

▼キャブソング

食事は皆がメインホールに集まって一緒に食べ、キャンプソングを一緒に歌いました。リーダーでもある東洋英和音楽教師の富岡正男さんが、キャンプ生活を題材にしたキャブソングをたくさん作詞・作曲していました。

キャンプソングを歌うと仲間との楽しい生活を共有している実感を得られ、キャンプが終わっても、しばらくは口ずさんでしまったものでした。

仲間の間では野尻病と呼んでしまいましたが、野尻学荘から戻るとしばらくは野尻での生活が懐かしく、思い出に浸り楽しかった日々の喪失感を味わっていました。

大人になった今でもキャンプソングを歌うと、若き日の楽しかった日々が心によみがえり、とても幸せな気持ちになります。



《野尻学荘：朝の洗面風景》



《今と変わらぬナイトプログラム》

▼少年部のプログラム

高校の時に、野尻学荘のディレクターであった毛利俊雄さんから東京YMCA中央ランチでの少年部の活動に誘われました。毎週土曜日、午後3時からの礼拝に始まり、そのあと所属するグループに分かれて活動をしました。グループでは、自分たちがしたいことを話し合い、計画して実施していました。読書会、レコード鑑賞、料理教室、ハイキングなどです。

全体でのプログラムとしては文化祭にあたる秋祭りや、東京YMCA全ランチ合同で行った模擬国連などのプログラムもありました。東京YMCAは上野原、観音崎、山中湖、野尻湖にキャンプ場を持っていたので、近場のキャンプ場には頻繁に行くことができました。とにかく私にとっては、その全てが楽しくて仕方がない時間でした。

▼リーダー経験



《晩餐会での筈川氏：リーダー時代》

大学 4 年間は野尻学荘と少年部のリーダーをさせていただきました。それまでとは違い、リーダーとして、ボーイズやメンバーの成長を願ってプログラムをリードすることが求められます。中高時代は自分が楽しいと思ってYMCAに通っていましたが、リーダーはボーイズ・メンバー・ファーストとして、主体を自分以外の他者とすることを研修会で教えられました。

野尻学荘で水泳のリーダーをした際に、中学生でまったく泳げないボーイズに平泳ぎを指導し、その子が 3,500m の遠泳を完泳できたことは、その少年本人はとても嬉しい経験であったでしょうが、教えた私の方もその少年以上に嬉しい思いに浸ることができました。この経験から、自分の為に生きるより、他者の喜びのために生きることの方がより大きな喜びであることを学ばせていただきました。

私は、幼稚園、小学校と家族と一緒に日曜学校に通っていましたが、大学時代に少年部の礼拝説教の為に毎週来られていた丹羽清治牧師の説教に聞き入るようになり、また野尻学荘の 2 週間のキャンプのチャプレンとしても丹羽清治牧師と小栗昭夫神学生が礼拝説教を担当されていたことから、リーダー仲間と誘い合い聖書研究会を計画し、聖書の学びを始めることも行いました。



《33 回野尻学荘：クロージングファイヤー》

▼ Y M C A と共に人生 60 年

中学1年でキャンプに参加して、素晴らしい仲間との楽しい生活を経験し、この理想的な人間関係に感激をしたことがきっかけで、Y M C A といつもつながっていたいという思いとなり、メンバー、リーダー、委員、常議員、評議員、理事などなど、様々な経験をさせていただきました。素晴らしい仲間と共に過ごした経験は今、まさに Y M C A がビジョンとして掲げている、誰もが生きやすい、希望ある豊かな社会を創造する社会安心網を意味する「ポジティブネットのある社会」を実際に体験させていただきたいのだと思います。この素晴らしい人間関係の輪を全ての人に共有してもらいたいと願っています。



《2018年度、日本YMCA大会での筈川会長》

Profile



1960年：第25回野尻学荘に参加
1963年：東京YMCA少年部に参加
1966年：第31回野尻学荘リーダー、少年部リーダー
1970年：東京海上火災保険株式会社入社
1983年：NY駐在員時代6年間
（東京フロストバレーYMCAパートナーシップ委員）
1998年：東京YMCA常議員
2004年：日本YMCA同盟常議員
2010年：日本YMCA同盟理事
2018年：日本YMCA同盟会長